



J613-M0785-01 Rev.C 061024

最初にお読みください



CentreCOM® 8624PS リリースノート

この度は、CentreCOM 8624PS をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0785-00 Rev.B）とコマンドリファレンス（J613-M0785-02 Rev.B）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.8.1-03

2 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.6.5 pl03 から 2.8.1-03 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 内蔵ファンの回転数制御

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「コンフィグレーション」

内部温度に応じて、本体内蔵ファンの回転数を制御するようにしました。回転数の制御は自動的に行われます（設定項目はありません）。

2.2 CREATE CONFIG コマンドの SET オプション

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「コンフィグレーション」

設定をファイルに保存する CREATE CONFIG コマンドに「SET」オプションが追加されました。本オプションを指定した場合、設定保存と同時に該当ファイルが起動時設定ファイルになります（別途 SET CONFIG コマンドを実行する手順が省けます）。


2.3 コマンド入力補助機能の拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「コマンドプロセッサー」

コマンド入力時の補助機能が拡張され、TAB キー（および Ctrl/I）によるキーワード補完や入力候補の表示などができるようになりました。


なお、この機能拡張にともない、従来の TAB キー（および Ctrl/I）の機能（入力途中のコマンドとマッチする最新のコマンド履歴を表示）は Ctrl/R にキー割り当てが変更されました。詳しくは「3.1 コマンドライン編集キーの変更」をご参照ください。

2.4 RADIUS 通信パラメーターの変更

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」


RADIUS サーバーとの通信に使うパラメーターを変更できるようになりました。変更は SET RADIUS コマンドで行います。

2.5 SNMPv3

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**


ネットワーク管理プロトコル SNMP (Simple Network Management Protocol) のバージョン 3 (SNMPv3) に対応しました。

2.6 SNMP 設定内容の一括消去

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**


SNMP 関連の設定（コミュニティ、ターゲット、ユーザー、ユーザーグループ、ビューなど）をすべて消去し、SNMP モジュールを無効化する PURGE SNMP コマンドが追加されました。このコマンドは SNMP の全バージョン（v1、v2c、v3）に対して適用されます。なお、本コマンドを実行しても、ENABLE SNMP AUTHENTICATE_TRAP コマンドの設定は消去されません。消去する場合は、DISABLE SNMP AUTHENTICATE_TRAP コマンドを実行してください。

2.7 BPDU フォワーディング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

スパンニングツリープロトコル無効時に受信した BPDU を転送する・しないの設定変更が可能になりました。設定は ENABLE/DISABLE SWITCH STP FORWARD コマンドで行います。デフォルトは無効（転送しない）です。

2.8 LACP (IEEE802.3ad)

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「LACP (IEEE802.3ad)」**

対向するスイッチポート間でネゴシエーションを行い、トランクグループ（リンクアグリゲーショングループ）を自動的に設定する LACP (IEEE802.3ad) に対応しました。


2.9 ポート認証の機能拡張

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」**

スイッチポート単位で LAN 上のユーザーや機器を認証するポート認証機能を以下のとおり拡張しました。

- MAC アドレスに基づいて機器を認証する MAC アドレスベース認証（MAC ベース認証）に対応しました。
- RADIUS サーバーから受け取った認証情報に基づいてポートの所属 VLAN を変更するダイナミック VLAN に対応しました。ダイナミック VLAN は、802.1X 認証、MAC ベース認証のどちらでも利用可能です。
- EAP-Notification メッセージに対応しました。
- 802.1X Authenticator ポートにおいて、認証方式 EAP-TLS、EAP-TTLS、EAP-PEAP に対応しました（EAP-TLS、EAP-TTLS、EAP-PEAP を使用する Supplicant を認証できるようになりました）。
- 802.1X Authenticator ポートにおいて、ゲスト VLAN を指定できるようになりました。


2.10 DHCP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「DHCP Snooping」

DHCP サーバー・クライアント間でやりとりされる DHCP メッセージを監視して動的な IP ソースフィルタリングを行う DHCP Snooping をサポートしました。

本機能を利用すれば、DHCP サーバーを用いたネットワーク環境において、正当な DHCP クライアントにだけ IP 通信を許可することができます。

2.11 ダイナミック ARP エントリーの一括削除

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

DELETE IP ARP コマンドが拡張され、ARP キャッシュからダイナミックエントリーを一括削除できるようになりました。一括削除を行うには、ARP パラメーターの値として新しく追加されたキーワード ALLDYNAMIC を指定します。


2.12 DHCP リレーエージェント情報オプション

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」

DHCP/BOOTP リレー機能に、リレーエージェント情報オプション（オプションコード 82）の付加・検査・削除を行う機能が追加されました。本機能を有効にすると、クライアントからの DHCP/BOOTP パケットを転送するときにリレーエージェント情報オプションを挿入し、サーバーからの戻りパケットをクライアントに転送するときに同オプションを削除するようになります。

機能の有効化・無効化は ENABLE/DISABLE BOOTP RELAY OPTION82 コマンドで、動作設定は SET BOOTP RELAY OPTION82、SET BOOTP RELAY OPTION82 PORT コマンドで行います。

2.13 Ping ボーリング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「Ping ボーリング」


ICMP Echo メッセージ（Ping パケット）を利用して監視対象機器をポーリングし、機器からの応答パケットを定期的に確認する Ping ボーリング機能が追加されました。本機能を利用すると、機器からの応答が途絶えたときや回復したときに、経路変更などのトリガースクリプトを自動実行できます。

2.14 IGMP スタティックエントリー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

IP マルチキャストのグループメンバーをスタティックに登録できるようになりました。

2.15 IGMP Snooping：高速脱退機能（Fast Leave）

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

IGMP Snooping に高速脱退（Fast Leave）機能が追加されました。通常、あるポートで Leave Group メッセージを受信したときは、Group-Specific Membership Query メッセージを何度か送信して（送信間隔と回数は LMQL、LMQC パラメーターで決定）、該当ポートの配下に他のメンバーホストが存在しないことを確認してから受信ポートをグループのメンバーリストから削除しますが、本機能を有効にしている場合は、Leave Group メッセージの受信

後ただちに受信ポートをメンバーリストから削除します。本機能は、ポート配下に 1 台しかホストが接続されていないことを前提にした機能です。ポート配下に複数のホストが接続されている場合は有効化しないでください。
設定は、新しく追加された SET IGMP Snooping FASTLEAVE コマンドで行います。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.6.5 pl03 から 2.8.1-03 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。


3.1 コマンドライン編集キーの変更

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「コマンドプロセッサ」**

コマンドラインにおけるキー割り当てが一部変更されました。

- 従来 TAB および Ctrl/I に割り当てられていた機能（入力途中のコマンドとマッチする最新のコマンド履歴を表示）が Ctrl/R にキー割り当てを変更されました。
- Ctrl/C に割り当てられていた機能（コマンド履歴を表示）がなくなりました。コマンド履歴を表示するには、既存の SHOW ASYN HISTORY コマンドが、新しく追加された SHOW COMMAND HISTORY コマンドを使用してください（2 つのコマンドは機能的にほぼ同等です）。
- Home キー、End キーが、それぞれ Ctrl/A（行頭に移動）、Ctrl/E（行末に移動）と同じ意味で使えるようになりました。

3.2 ハードウェア IP フィルター：マッチ条件（フィルター）の最大数変更

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」**

IGMP Snooping 無効時のマッチ条件（フィルター）の最大数がシステム全体で 16 個から 14 個に変更されました。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.6.5 pl03 から 2.8.1-03 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 本体（CPU）から大量のパケットを送信すると、それ以降 SHOW CPU コマンドで表示される CPU 使用率が高いままになっていましたが、これを修正しました。
- 4.2 コンソールケーブルの抜き差しや「MODE LED 表示切替ボタン」の押下によって、SHOW EXCEPTION コマンドで表示される Spurious interrupts カウンターが増加していましたが、これを修正しました。
- 4.3 Telnet ログイン時に RESET ASYN=0 を実行すると、シリアルコンソールからのログインセッションが強制終了されますが、SHOW USER コマンドの「Active (logged in) Users」欄には「Asyn 0」からログインしたユーザーが残ったままになっていましたが、これを修正しました。

- 4.4 RADIUS サーバーに Access-Request パケットを送信するとき、NAS-Port 属性を含めませんでしたが、これを修正しました。
- 4.5 応答コード 404 (Not Found) を返さない Web サーバーに対して LOAD コマンド (LOAD METHOD=HTTP) を実行すると、FILE パラメーターで指定したファイルが該当サーバー上になかった場合に本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.6 ADD LOG RECEIVE コマンドの設定がシステムを再起動するまでは有効になりませんでしたが、これを修正しました。
- 4.7 ログメッセージフィルターの設定 (ADD LOG OUTPUT コマンド) において、MODULE パラメーターに SWITCH を指定しても (MODULE=SWITCH)、スイッチングモジュールのログが出力されませんでしたが、これを修正しました。
- 4.8 SHOW LOG RECEIVE コマンドの RECEIVE パラメーターに値を指定しても、項目の絞り込みが行われませんでしたが、これを修正しました。また、MASK パラメーターを指定するとエラーになっていましたが、これを修正しました。
- 4.9 ログを Syslog サーバーに送信するよう設定している場合、再起動時のログメッセージが Syslog サーバーに送信されませんでしたが、これを修正しました。
- 4.10 CREATE TRIGGER コマンドの REPEAT パラメーターに回数 (count)、NO、ONCE のいずれかを指定した後、設定をファイルに保存すると、設定ファイル上の REPEAT パラメーターの値が入力時とは異なる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.11 ifType の値が ethernetCsmacd(6) ではなく iso88023Csmacd(7) になっていましたが、これを修正しました。
- 4.12 内蔵ファン 2 ～ 5 に障害が発生しても SNMP トラップが出力されませんでしたが、これを修正しました。
- 4.13 NTP による時刻取得ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.14 SHOW FFILE コマンドの出力において、SET ASYN コマンドの PAGE パラメーターで設定した行数での一時停止が行われませんでしたが、これを修正しました。
- 4.15 SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できませんでしたが、これを修正しました。
- 4.16 SHOW SWITCH PORT コマンドの実行時、PoE 関連項目の前にコマンドプロンプトが表示されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.17 SHOW SWITCH PORT コマンドの表示において、「Broadcast rate limit」、
「Multicast rate limit」、「DLF rate limit」各欄の表示が「xxxx/s」(xxxx は数値) のようになっていましたが、これを「xxxx fps」(Frames Per Second) に修正しました。

- 4.18 通信中に GBIC モジュールを抜き差しすると通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.19 SHOW SWITCH PORT コマンドの実行時、画面表示がページ単位で一時停止しませんでした。これを修正しました。
- 4.20 CREATE SWITCH TRUNK コマンドで複数のトランクグループを作成した後、設定を保存して再起動すると、トランクグループの表示上の順序が変更されていましたが、これを修正しました。
- 4.21 CREATE SWITCH TRUNK コマンドを 7 回以上実行すると、ポートランキングが動作しなくなっていました。これを修正しました。
- 4.22 トランクグループをマルチプル VLAN (Private VLAN) のプライベートポートとして使用している場合、SHOW CONFIG DYNAMIC=SWITCH を実行しても、ポートランキング関連のコマンドが表示されませんでしたが、これを修正しました。
- 4.23 起動時設定ファイルにおいて、ポートランキングの設定が VLAN へのポート割り当て設定より前に書かれていると、起動時にポートランキングの設定が有効にならずループが発生していましたが、これを修正しました。
- 4.24 ポートランキングとマルチプル VLAN (Private VLAN) を併用する場合、設定順序によって (SHOW CONFIG DYNAMIC で表示される) コマンドの保存位置が異なる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.25 スパニングツリープロトコル (STP) 有効時に ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドによる各ポートの STP 無効の設定が削除され、STP が有効になっていましたが、これを修正しました。
- 4.26 Rapid モードのスパニングツリープロトコル (RSTP) 有効時、ポートが Sync 状態になったときに送信する最初の BPDU に Proposal フラグをセットしませんでした。これを修正しました。
- 4.27 STP ドメインの所属 VLAN にタグ付きポートを割り当てると、DISABLE STP PORT コマンドの設定が削除されていましたが、これを修正しました。
- 4.28 スパニングツリープロトコル (STP) の動作モードを変更すると、STP が無効になっているポートから BPDU が 1 パケット送信されていましたが、これを修正しました。
- 4.29 Rapid モードのスパニングツリープロトコル (RSTP) 有効時、STP ドメインの RSTPTYPE パラメータを変更してからポートの STP を有効化すると、RSTPTYPE の変更が反映されずに古い設定の BPDU が送信されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.30 スパニングツリープロトコル (STP) 有効時に ADD VLAN PORT コマンドを実行すると、VLAN 内のすべてのポートにおいて、STP のポートステータスが初期化されていましたが、これを修正しました。

- 4.31 複数の STP ドメインに所属しているポートに対して SET STP PORT コマンドを実行するとき、STP ドメイン名の指定を省略すると PATHCOST や PORTPRIORITY の変更がすべての STP ドメインに反映されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.32 スパニングツリープロトコル (STP) が無効に設定されているポートを異なる STP ドメイン所属の VLAN に移動するとリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.33 スパニングツリープロトコル (STP) とスタティックエントリー (スイッチフィルタ) の併用時、BPDU が正常に受信できないため、ポートの状態が Blocking にならず Forwarding となっていました。これを修正しました。
- 4.34 ルーティングパケットと本体 (CPU) 宛てのパケットに対して、フォワーディングデータベース (FDB) のスタティックエントリーが機能しませんでした。これを修正しました。
- 4.35 起動時設定ファイルにスタティックエントリーの登録コマンド (ADD SWITCH FILTER コマンド) が 1 ポートあたり 300 件以上書かれていると、起動後 CPU 負荷が 100% になることがありましたが、これを修正しました。
- 4.36 ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで EPORT パラメーターを指定した場合、フィルタ対象パケットの終点 IP アドレスが L3 テーブルに登録されていないと、NODROP アクションが機能しませんでした。これを修正しました。
- 4.37 ADD SWITCH L3FILTER MATCH コマンドで NOMATCHACTION=DENY を指定し、ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで ACTION=NODROP を指定した場合に、NODROP アクションが機能しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.38 ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドでフィルタリング条件に IPORT、EPORT パラメーターの両方を指定 (または EPORT のみ指定) した場合、条件にマッチしない場合でもフィルタ処理されてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.39 DISABLE PORTAUTH コマンドを実行しても、認証済み Supplicant のスイッチフィルタエントリーが削除されませんでした。これを修正しました。
- 4.40 802.1X Multi-Supplicant モードの Authenticator ポートにおいて、サービスパック 2 (SP2) を適用した Windows XP を Supplicant として使用すると、ログインダイアログが表示されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.41 SET TRACE コマンドのパラメーターに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.42 IP モジュールが有効な状態から、いったん無効化し再度有効化すると、L3 テーブル内のエントリーが複製されていましたが、これを修正しました。
- 4.43 ADD IP INTERFACE コマンドで IPADDRESS=DHCP を指定し DHCP サーバーから IP アドレスを取得するよう設定した後で ENABLE IP REMOTEASSIGN コマンドを実


行しても、DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスが該当インターフェースに設定されませんでしたが、これを修正しました。

- 4.44 ネクストホップが自インターフェースアドレスと一致している経路を IP の経路表に登録していましたが、これを修正しました。
- 4.45 SHOW IP ROUTE コマンドにおいて、インターフェース (VLAN) の VLAN ID が 4 桁の場合にリンクダウンを示す「#」が表示されませんでしたが、これを修正しました。
- 4.46 RIP バージョン 2 使用時、ネットワークアドレスが同じでサブネットマスクの異なる複数の経路情報を持っている場合、優先度の最も高い (Preference 値が最も小さい) 経路だけを通知していましたが、これを修正しました。
- 4.47 マルチホーミングした IP インターフェース上にスタティック ARP エントリーを登録する場合、存在しない論理インターフェースを ADD IP ARP コマンドの INTERFACE パラメーターに指定すると、システムがリポートしていましたが、これを修正しました。
- 4.48 VLAN インターフェースに IP アドレスを設定したとき、ARP キャッシュに IP アドレス 255.255.255.255 のエントリーが登録されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.49 不正な ARP パケットを受信しても、SHOW IP COUNTER=ARP の arpRxDiscPkts カウンターがカウントされませんでしたが、これを修正しました。
- 4.50 Gratuitous ARP パケットの受信時、受信インターフェースと異なるネットワークの IP アドレスであっても、そのアドレスを ARP キャッシュに登録していましたが、これを修正しました。
- 4.51 ENABLE IP DNSRELAY コマンドで DNS リレーを有効化すると、デバッグメッセージが表示されるようになっていましたが、これを修正しました。
- 4.52 DHCP/BOOTP リレー機能使用時、パケット長 346 Byte 未満の DHCP パケットがリレーされませんでしたが、これを修正しました。
- 4.53 IGMP Snooping 有効時、150000 件以上のマルチキャストグループが登録された後でこれらのグループエントリーがタイムアウトするとリポートしていましたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン **2.8.1-03** には、以下の制限事項があります。

5.1 SET RADIUS コマンド

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」**

RADIUS サーバーを複数登録している場合、最初に登録した RADIUS サーバーに対してのみ、SET RADIUS コマンドの RETRANSMITCOUNT パラメーターが正しく動作しません。最初の RADIUS サーバーへの再送回数のみ、RETRANSMITCOUNT の指定値よりも 1 回少なくなります。

5.2 SNMP

「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- dot3StatsCarrierSenseErrors の値が取得できません。
- 拡張モジュール AT-A47 に GBIC を装着していない状態で本体を起動すると、ifMauStatus の値が other(1) ではなく operational(3) になります。
- スイッチポート 25 ～ 26 の ifInDiscards がカウントされません。
- RIP を使用しているとき、ipFowardNumber の値が常に 0 となります。
- プライベート MIB の atrMacBasedAuthPaeState において、本来と異なる値を持つものがあります。
 - ・ authenticated(5) になるべき MIB の値が、authenticating(6) になります。
 - ・ held(7) になるべき MIB の値が、aborting(6) になります。
 - ・ SET PORTAUTH PORT コマンドで「SET PORTAUTH=MACBASED PORT=5 CONTROL=AUTHORISED;UNAUTHORISED」を設定しても、MIB の値が forceAuth(8) または forceUnauth(9) にならず、initialise(1) になります。
- プライベート MIB の atrMacBasedAuthControlledPortStatus において、本来と異なる値を持つものがあります。
 - ・ 認証を行っていないにもかかわらず MIB の値が unauthorised(2) にならず、authorised(1) になります。
 - ・ SET PORTAUTH PORT コマンドで「SET PORTAUTH=MACBASED PORT=xx CONTROL=AUTHORISED;UNAUTHORISED」を設定しても、MIB の値が forceAuth(10) または forceUnauth(12) にならず、never(1) になります。
- topologyChange トラップと newRoot トラップが送信されません。
- インターフェース MIB の ifPromiscuousMode (ifXEntry 16) に false(2) を Set しても、自分宛てでないパケットを受信します。

5.3 NTP

「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」


SET NTP UTCOFFSET=NONE を実行した後、設定を保存して再起動すると、起動時に「Invalid zone or time for UTC offset.」というエラーメッセージが表示されます。タイムゾーンをデフォルト値に戻す場合は、SET NTP UTCOFFSET=UTC（または GMT）のように指定してください。

5.4 SHOW SWITCH COUNTER コマンド

「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」


RIP が有効化されているインターフェースがリンクダウンしていると、SHOW SWITCH COUNTER コマンドの Transmit/Discards がカウントアップされます。

5.5 ポートランキング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**


- ポートランキングと RIP を併用しているとき、トランクグループの所属する IP インターフェイスがダウンすると、他の IP インターフェイスから送信される RIP Response パケットの始点アドレスに、ダウンしたインターフェイスのアドレスがセットされます。
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドの PORT パラメーターでメンバーポートを指定した場合、指定ポートがマルチプル VLAN（Private VLAN）の同一グループ所属であるかのチェックが行われません。これを回避するため、マルチプル VLAN とポートランキングを併用するときは、先にトランクグループを作成してから、トランクグループをマルチプル VLAN に割り当ててください。

5.6 LACP (IEEE802.3ad)

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「LACP (IEEE802.3ad)」**


- LACP によって自動生成されたトランクグループのメンバーポートに対して CREATE SWITCH TRUNK コマンドを実行すると、通信ができなくなります。
- LACPDU にセットする送信元 MAC アドレスの G/L (Global/Local) ビットが 1 になっています。機能上の問題はありません。
- LACP において、トランクグループの情報が存在しない場合でも、LACPDU 内の Actor_State、Partner_State 両フィールドの Aggregation フラグに 1 をセットします。

5.7 Protected VLAN

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」**


Protected VLAN の所属ポートをミラーリングのソースポートに設定すると、Protected VLAN のポート間で通信ができてしまいます。

5.8 スパニングツリープロトコル

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」**


- スパニングツリープロトコル（STP）有効時に Topology Change が発生すると、すべてのポートから ARP エントリーが削除されます。
- スパニングツリープロトコル（STP）有効時、スイッチポートがリンクダウンしても STP のポート状態が Forwarding のまま変化しません。このため、スパニングツリーの再構成にかかる時間が最大エージタイム（MaxAge）の分だけ長くなります。
- 最大エージタイム（Max Age）がデフォルトの 20 秒であるとき、Message Age の値が 18 秒か 19 秒の BPDU を受信した場合、これを破棄します。

5.9 フォワーディングデータベース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

エラーパケットを受信したときも、送信元 MAC アドレスをフォワーディングデータベース (FDB) に登録します。

5.10 ハードウェア IP フィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」

フレームタイプ 802.3 raw の IPX パケットにマッチさせるため、DSAP / SSAP = 0xFFFF の条件を持つフィルターエントリを作成した場合、このエントリはフレームタイプ Ethernet 2 の IPX パケットにもマッチしてしまいます。

5.11 ポート認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

- 802.1X Multi-Suppliant モードの Authenticator ポートでは、Port Status が authorised でも IGMP Query パケットがフラッディングされません。
- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVERTIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで TIMEOUT × (RETRANSMITCOUNT + 1) の値を SERVERTIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVERTIMEOUT の設定が正しく機能します。
- ポートの 802.1X 認証機能をいったん無効にしてから再度有効にすると、Authenticator は Suppliant の MAC アドレスをゲスト VLAN 上で学習しません。
- MAC アドレスベース認証において再認証に失敗しても、プライベート MIB の atrMacBasedAuthUnauthenticated トラップが送信されません。

5.12 ディレクティッドブロードキャストパケット

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」


特定 VLAN に対するディレクティッドブロードキャスト転送をオンにしている場合、ブロードキャスト MAC アドレス (FF-FF-FF-FF-FF-FF) 宛てのディレクティッドブロードキャストパケットを (別 VLAN で) 受信すると、それ以降、本体 MAC アドレス宛てに送信された通常のディレクティッドブロードキャストパケットを転送できなくなります。

5.13 IP インターフェース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」


ADD/SET IP INTERFACE コマンドで他の VLAN と重複するネットワークアドレス (IP アドレス / ネットマスク) を指定しても、エラーになりません。重複したアドレスを設定しないよう注意してください。

5.14 DNS キャッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」


DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

5.15 IGMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

- Non-Querier のときでも、Leave メッセージを受信すると Refresh タイマーを更新します。
- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Leave メッセージを受信すると、同タイマーが更新されます。
- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。

5.16 IGMP Snooping


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

SET IGMPSPNOOPING ROUTERMODE コマンドでパラメーターに NONE を指定しても、224.0.0.1 および 224.0.0.2 からのマルチキャストパケットを受信した場合には All Group を作成します。All Group を作成しない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドを使用してください。

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正


取扱説明書とコマンドリファレンスの補足事項です。


6.1 HTTP サーバー（サポート対象外）

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

6.2 システム時刻とログ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」


- 本製品はリアルタイムクロックを内蔵していないため、再起動するたびにシステム時刻が 1999 年 1 月 1 日の 0 時 0 分 0 秒に戻ります。ログなどの記録日時を正確に保つため、可能なかぎり NTP の利用をおすすめします。

- syslog サーバーにログを転送するときは、NTP を併用してください。

6.3 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレーム


受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

6.4 ポート帯域制限機能の受信レート上限値と TCP 通信のスループット

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

スイッチポートに受信レート上限値（INGRESSLIMIT）を設定している場合、同ポートを経由した TCP の通信では、TCP データのスループットが設定した上限値よりも低くなります（低下の度合いは通信状況に依存します）。これは TCP プロトコルの特性として、帯域制限機能によって破棄されたパケットの再送処理などが発生するためです。また、TCP 以外においても、同様の再送処理を行うプロトコルではこの現象が発生する可能性があります。

6.5 フォワーディングデータベース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

初回のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されないことがあります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

6.6 DHCP/BOOTP リレー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」

マルチホーミングと DHCP/BOOTP リレーは併用できません。

7 未サポートコマンド（機能）

以下のコマンド（機能）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド
ENABLE、ADD、SHOW などの後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

CLASSIFIER, DHCP (SET DHCP EXTENDID は除く), ENCO, ETH, GARP, GUI, HTTP, LDAP, OSPF, PKT, PKI, SERVICE, SKEY, SSH, SSL, TACPLUS, TEST, TACACS, VLANRELAY, VRRP

- 以下のコマンド（パラメーター）

COPY
CREATE/SET TRIGGER [BEFORE] [AFTER] [DATE] [DAY]
CREATE/SET TRIGGER TIME
CREATE/SET LOG OUTPUT [MAXQUEUESEVERITY] [PASSWORD]
[QUEUEONLY] [DAY]
CREATE/SET LOG OUTPUT DESTINATION=ROUTER
DUMP
LOAD [METHOD=LDAP] [ATTRIBUTE] [BASEOBJECT]

SET SYSTEM HOSTID
SET SYSTEM TERRITORY
SET SYSTEM DISTINGUISHEDNAME
SET SYSTEM DISTNAME
SHOW SYSTEM TEMPERATURE

ENABLE/DISABLE/SHOW SWITCH BIST
SET/SHOW SWITCH SOCK
SET SWITCH PORT [SPEED={10MHAUTO ; 10MFAUTO ; 100MHAUTO ;
100MFAUTO ; 1000MHAUTO ; 1000MFAUTO ; 1000MHAF ; 1000MFULL ;}]
SHOW SWITCH MEMORY
SHOW SWITCH SWTABLE

ADD/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER
ADD/SET IP INTERFACE [GRATUITOUSARP] [VJC] [OSPFMETRIC] [FILTER]
[POLICYFILTER] [PRIORITYFILTER] [MULTICAST] [IGMPProxy]
[ADVERTISE] [PREFERENCELEVEL]
ADD/CREATE/DELETE/DESTROY/DISABLE/ENABLE/SET/SHOW IP MVR
ADD/SET IP ROUTE FILTER [PROTOCOL=OSPF] [POLICY=0..7]
ADD/DELETE/SHOW IP TRUSTED
ENABLE/DISABLE/SHOW IP ADVERTISE
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE
SET IP AUTONOMOUS
SHOW IP CACHE
SHOW IP CASSI
SHOW IP POOL
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE MULTICAST
SHOW IP FLOW
PURGE PING TOTALLY
SET BOOTP MAXHOPS
TRACE [ADDRONLY]

8 取扱説明書とコマンドリファレンスについて

最新の取扱説明書（J613-M0785-00 Rev.B）とコマンドリファレンス（J613-M0785-02 Rev.B）は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記の取扱説明書とコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちの取扱説明書、コマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>